

平和行進は、東かがわ市からさぬき市へ、

伝統の全県「あるく」危機を乗り越え!

昨日の雨が嘘のように晴れ渡りました。JR 丹生駅での出発式で、東本政行理事は、とにかく今年の「行進」は全市歩くことを目標にして、歩きとおせたと感慨深く振り返りました。そして東かがわ市はTPNWへの政府意見書でも県下一番に採決し、続いてウクライナへの侵攻抗議決議やウクライナ支援金など、世界の中の東かがわ市の存在を発信していると紹介し今後とも頑張ると決意表明。

山口逸郎さんは、この二日間の香川県の特徴は、訴えの「反応」が良いといいます。車中から手を振り、会釈をし、その気持ちが行進者を勇気づけるといいます。また参加者が少ない中、3人が初めての参加。さぬき市民病院からの参加者（42歳）は「楽しかった」と一言。また手作りのプラカードで参加した方は、どこまで歩けるかと不安そうでしたが、聞くと活動が「オン」になったきっかけは、安保法制からといいます。昼からの行進も不安のスタートでしたが、途中でリタイヤしました。三木診療所の岸田さんの救急対応には本当にホッとしました。

山口さん一人になった行進者を救ったのは、東本夫妻でした。伝統の全県踏破を守り抜いたのです。振り返れば、松永始さんが、ある地域で「歩いたことにしよう」との提起に、断固として「歩く」と拒否。この伝統を守り抜けたのが今日の一番の収穫でした。山口さんが一人になっても「歩く」との快諾に頭が下がると同時に、通し行進者を一人で歩かせていいのかが問われているのではないのでしょうか？

誰かが歩くのではなく、「私が歩く」の積み重ねが、平和行進でしょう！ 明日からはこんな失態を克服しましょう。ウクライナ国民の思いを、重ね合わせましょう。

志度の行進では、徳島文理大学生がマジで「一歩でも」行進に参加してくれました。これも大きなサプライズでした。今泣いたカラスがもう笑た！



JR丹生駅での出発式で



羽立峠で一人行進中の山口氏

全組織が、誰がいつ歩くのか。午前か午後か、はっきりさせましょう。そのためにもまず自分がいつ歩くのか、決めましょう。